

報道関係者各位
プレスリリース

ヒロセ電機株式会社

ヒロセとハーティングが、新標準に注力

ヒロセ電機株式会社（東京）とハーティングエレクトロニクス GmbH（ドイツ エスペルカンブ）は、10ギガビットイーサネット向けの小型接続技術に関する開発・標準化およびマーケティングの協業につき、正式に合意いたしました。

現在の標準通信規格である RJ45 モジュラーコネクタは、イーサネットを使用する際、必要不可欠なものでした。しかしながら、産業用機器の使用環境に真に適した接続技術とは言えず、その展開に際しては絶えず改良を余儀なくされてきました。この状況を鑑みて、ハーティング社は世界ではじめて産業用途に適した小型現場結線タイプ RJ45 製品を開発しました。

Internet of Things やそのサービスがもたらすグローバルなデジタル化の潮流の中で、接続技術における部品やインターフェースの小型化は極めて重要な要素になっております。

ハーティングテクノロジーグループの会長であるフィリップハーティング氏は「『Internet of Things』の一形態としてのインダストリー4.0には、特に一つの要素、つまりインダストリー4.0の全ての機器をつなぐイーサネット接続技術こそが必要となる」とコメントしています。「新しいハイパフォーマンスな部品とそれによる通信インフラを標準化し、国際規格化することは、市場でそれが広く受け入れられる上で、また市場のビジネス計画の安定性を確保する上で、極めて重要な要求事項である」と。

一方ヒロセ電機グループは、携帯電話やスマートフォンに代表されるハンドヘルドデバイス向けに小型コネクタを供給し、電子機器の小型化・高速化などに貢献してきました。内部接続用のコネクタをはじめ、現在幅広く流通しているマイクロ USB 規格（USB2.0、3.0、3.1）はヒロセ電機がオリジナルデザインを行なったものであるなど、高信頼性小型コネクタの分野でヒロセ電機は重要な役割を果たしてきました。そしてヒロセ電機は、小型電子機器市場と共に、産業用機器市場に対しても、さらに注力するようになってまいりました。

この状況下において、双方の企業の強みを生かして、新しいインダストリー4.0の標準となる、小型かつより堅牢な、高速性能に優れたイーサネット接続インターフェースを開発し、販売することに合意したものであります。「先端のコネクタ技術を有した2社の英知を結集し、新たなソリューションをグローバルに展開することにより、全世界のお客様にとって、大きな利益をもたらすものと思う」と、当社社長 石井和徳は考えております。

この2社は、この秋に開催される Electronica または SPS/IPC Drives の展示会で、この協業の更なる詳細を発表する計画であります。

ヒロセについて

ヒロセ電機は、産業機器、自動車、情報通信、医療およびスマートフォンを中心とする民生など各市場向けに幅広いコネクタ製品ラインナップを開発製造する、接続技術における世界のリーディングカンパニーであります。コネクタの小型化技術のみならず、高速化・高信頼性および高電力用途の製品、およびその先進的な生産技術において、約80年近くに渡りビジネスを展開してまいりました。ヒロセは全世界で、13ヶ国において、24の販売拠点、8カ所の製造工場、5ヶ所の開発拠点、4000人以上の従業員を有し、2014・15年会計年度で1200億円以上の売上高を計上しております。

ハーティングについて

ハーティングテクノロジーグループは「データ」「信号」および「パワー」の3つの産業機器用接続技術における、世界のリーディングカンパニーであり、13の生産工場、および43ヶ国にわたって支店を有する企業です。さらにハーティングは、小売店舗向け販売システム（チェックアウトシステム）や、自動車および産業機器向け電磁アクチュエータ、また輸送機器・ロボット・産業オートメーション顧客向けのソフトウェアやアプリケーションなどを提供しています。2014/15年会計年度においておよそ4200人の従業員を有し、5億6700万ユーロの売上高を計上しております。

本件に関するお問い合わせ先

ヒロセ電機株式会社

Email: hirose.collaboration@hirose.co.jp

Website: www.hirose.com